

いぢもん新聞



祝 W 襲名
枝光改め
四代目
三風改め
五代目
慶枝
梅枝



五代目文枝

被光役大 三國役大 W 襲名
四七四 佳福枝 五九四 佳慶枝



襲名披露会見

おめでとさん!!
これからも
がんばれよ!



六代 桂文枝

第二回

船寺神社寄席




露の団六 桂 文福




桂 鹿矢もん 千田 ゆずり

**日時 2024/10/12（土）開場13:30
開演14:00**

会場 船寺神社 住所：神戸市須磨区船寺通2-1-25
阪神大石駅より徒歩2分

入場料 前売り1,800円 当日2,000円
小・中学生以下無料

お問い合せ **090-8445-0138 中山**

演出：(有) 文庫くらぶプロモーション
主催：船寺神社寄席実行委員会
共催：ワッツハルあそびば
協力：神戸大学落語研究会



アツポルシム
やきとり屋
バニラ
お食事処
第一ムスビ
東宝ビルヂング
南立寄品株式会社
光恵堂
大石とじ屋
株式会社 神楽社
尾村歯科医院
スタンダード・トゥイン
お食事は、ゆーよし
原宿池袋 おかひだ



決雨天
（ご遠征して
お待ちしております）
みなさま
出席不可
さようなら





桂文珍と楽珍、珍念



桂三風



桂枝光



名古屋場所にて



阿武剋(おおのかつ)関、阿武咲(おおのしょう)関

○祝、ダブル襲名

この度、五代目文枝門下の枝光と六代文枝門下の三風が、めでたく大名跡を襲名。枝光改め四代目梅枝、三風改め五代目慶枝。9月27日、なんばグランド花月（NGK）の襲名披露を皮切りに繁昌亭や喜楽館、東京、京都、北海道など各地で披露興行を開催。（詳しくは2人のHP等をご参照ください）そこで、編集長が2人にインタビュー

編集長「この度はおめでとう。芸歴は何年ですか」

枝光「はい、46年です」

編集長「若い頃は『小つぶ』の芸名でアイドル的人気を博し、その後北海道に移住して、北の大地に上方落語の種をまいて見事、花を咲かせましたね」

枝光「はい、今は北海道と大阪を行ったり来たりしていますが、平成8年に小つぶから枝光を襲名して、師匠に札幌で口上に並んでいたいた時は、大感激でした。」

編集長「枝光も大きな名前ですが、この度梅枝になるというのは……」

枝光「はい、師匠が生前、枝光の上には梅枝というもう一つ大きな名があるから、それを目指せと仰ってくださいまして……」

編集長「それなら、おやじ（五代目文枝）も、天国寄席の楽屋で喜んでやるなあ。さあ、梅枝への意気込みは？」

枝光「はい、『梅花、五福を開く』という言葉がありますので、私

の落語を聞いて頂いて多くの福をお持ち帰ってもらいたいですね。根多としては師匠の十八番の『紙屑屋』で鳴り物も、ふんだんに舞台を大きく使って盛り上げたいですね」

編集長「がんばってください」

編集長「三風さん、この度はおめでとう」

三風「ありがとうございます」

編集長「襲名のきっかけは？」

三風「はい、榊家生活40周年の節目に改名したいと師匠に言いまして、思い切って『三枝』を、といいましたら『それは、ちよつとなあ』（笑）ほな、三風の風を入れて『三枝風』は？て、それは、おかしいですよね」

編集長「おもしろいけどなあ」

三風「そんな時、昨年の夏の高校野球で慶応高校が優勝して話題になり、『慶』の字は縁起がええなあ、と師匠が系図で『慶枝』という名跡があるから五代目として継げと仰ってくださいまして……」

編集長「なるほど、ありがたみがある名前で、お祝い事にもおよびがかると思うよ」

三風「はい、気に入ってます」

襲名披露では、師匠（六代文枝）のような創作落語をネタおろししようとはりきっております。もちろん、大師匠（五代目文枝）の古典『愛宕山』等にも挑戦していきます」

編集長「がんばってくださいね」

○小文枝・文珍芸歴55周年

五代目文枝門下の二番弟子の小文枝と同期の文珍が今年めでたく榊家生活55周年を迎えた。二人は筆頭弟子の六代文枝が81歳でも精力的に活動している姿に刺激をうけて、それぞれユニークな記念の会を展開する。

小文枝は55周年にちなみ、全国55ヶ所で商店街の集会場や公民館等で、地域寄席を催し、ゴールは能登地方で落語会を開き売上げは義援金としておいていきたいとコメント。

文珍は、今年も恒例の8月8日の「8・8文珍デー」（NGK）の会も42年連続満員御礼。今まで東京の国立劇場等、大きな会場はかつてのものが、来る11月19日大阪フェスティバルホール（2754席）にて独演会「ザ・ヒットパレード」と題して十八番を並べる、「老婆の休日」「デジタル難民」「地獄八景亡者の戯れ」を演じ、「地獄……」では、ざこば師らも登場するかも……。

文鹿のクローン

立川こしら・桂文鹿二人会「東西の破天荒」。何をもって破天荒かは解らないが、彼は住居を持たず、年中ホテル暮らし、連絡先の会社は韓国に国境を接する対馬に置き、弟子の命名はネーミングライツでアイドル事務所売却、立川仮面女子と名付けた。荒ぶるという破天荒の意味合いとは掛け離れた理解不能の道を行く落語家でした。

まめだの無口なためき

つつい每晚お酒を呑んでしまふ。節約の為に大きい焼酎を買っているが、夏場はどうしても発泡酒だビールを買ってしまう。身体の為、肝臓の為に禁酒まではいかないが、休肝日を作りたいがやめられない。わかっちゃいるけどやめられない。まるでスーダラ節だ。植木等さんがスーダラ節を歌った時に植木等さんの父親は人間の業だとほめたそう。

この前たまたまお酒を呑まない日があった。その日は体も楽だし頭も冴えて用事も出来た。よし休肝日を作ろうと心に誓ったのだが、どうなる事やら。

「文也の分野」

昔から「ニッパチ」なんて事を言います。興行の世界では2月と8月は客が入らないのが定説でして、確かに暑さ寒さが最も厳しい時期は人も表に出たがらないことから昔はそらそやな諦めよか、てなことになったんでしょうな。そらエアコンの無かった8月の寄席は客にも演者にも地獄やし2月の火鉢しかない隙間風吹き込む昔の寄席なんて冬山遭難と変わらんかったやろしね。

ところが時代は変わりました。今やどんな会場もエアコンはあるし8月なんて夏フェスに野外ライブとエンタメ最適シーズンや。とは言え落語の野外高座はちよつと。実は昔、師匠文枝と夏祭りの野外高座に出たことがあります

た。主催者が気を利かせたつもりで高座の周囲に数台の扇風機と無数の蚊取り線香。着物ははためき、髪は乱れ、線香の煙で黙々と燻され、閻魔様でも出てくるネタだったらまだしもネタは京の茶漬けで、涙目で咳込んで茶漬け食うたはったなあ。

そんなニッパチの寄席のファンサービスとは何やろと考えました。怪談噺よりもっと直接的な、例えばUSJのミニオンでやってるような、はたまたサザンの茅ヶ崎ライブで桑田がやってるような直接お客様に水をかけたりして一緒に大騒ぎして涼しく発散してもらおう手もあるんちゃうかと提案したら「そらオモロイ。いや客に失礼やろ。案外ウケるかも。寄席で水はあかんで。水芸やがな」と喧々諤々でまあ結局、水掛け論になったんですが……あつこれ最近繁昌亭でウケたマクラです。

文喬のぶんきょうチツク

7月の末、礼文島に友達と旅行した。大阪は連日うだるような暑さですが、礼文島は気温が20度でめっちゃ気持ちいい。大阪とえらい違い。そういえば、20年以上前になるが礼文町教育委員会に呼ばれて講演に来たことがある。5月中旬なのに気温が9度で寒かったのを覚えている。講演が昼過ぎに終わったので、主宰者の方が「昼食に行きましょう。この辺はウニの名産地で美味しいウニがふんだんに獲れるんです。」とウニ尽くしの専門店に連れていってくれ

た。うに井やウニのお吸い物やらほんまにウニ尽くし。うまかった。関係者の中に落語好きの方

がいて、「落語会をしたいんです

が、1年後は如何ですか。」と聞いてきた。また、美味しいウニが食べられると喜んで承諾した。

1年後、仲のいい落語家5人

といざ礼文島へ。彼等にもウニ尽くしの一件を伝えていたので、みんな夜の打ち上げのウニ尽くしを

楽しみにしている様子。落語のマクラで「礼文のウニが美味しいと

聞いてます。楽しみやわ。と喜ばし

といて、ホカ弁が出てきたりして。そんなことないか」と笑いを取

取ってるのもいた。

恙なく落語会も終わり、着替え

もそこそこに打ち上げを待っていると、関係者の方が「お二階の和

室に夕食を用意していますのでどうぞ」と伝えにきた。二階の和室

入るとホカ弁がポツンと6つお

いである。「このへんは夜7時にな

るとお店が皆閉まってしまっ

す。それでちよつと早めに買って

おきました。それから当会館は禁

酒ですので、アルコール類は一切

枝女太の「和」のころ

私事で恐縮ですが、今年の6月に弟子を取りました。落語家

になつて48年目、恥ずかしなが

ら初めてのお弟子さんです。女性

です。うーん、初めて取る弟子が

女性かい。でもこれも縁なんだと思

います。良い縁をいただいたと思

っています。

芸名は、桂結女香（ゆめか）と

名付けました。私の名前は師匠の

小文枝の枝をいただいて枝女太。

通常師匠の名の一字を付けること

が多いので枝か女か太。枝と太

は他の一門の方も結構使ってお

れるので残るは女。この字の使

い方になんか苦労しました。〇〇

女、と最後に付ける手もあるの

ですが、一門の妹弟子にあやめ君

がいてそのお弟子さんがおとめ

君。うーん、仮名と漢字の違いこ

そあれ、下に「め」はやめて、私

と同じ真ん中。というわけで結女

安堂寺橋で

仕入れた品物を

江戸っ子弁で売る

商売を

始めたという…。

「そんな江戸っ子は無い」と

教えてもらったのが

「ザルでもって

天秤棒を

持ち上げるの

一貫だって、よせやい。

二貫や三貫の

品物じゃあねえ。

二朱と四貫八百だ

い。

ツラあ洗って

出直してきやが

れ、

けだものめ」

◇

店へ戻った

喜いさん、

教えてもらった

江戸っ子弁で

商売を始めた…。

（つづく）

文昇問題 その一

新開地喜楽館にて、40周年の同

期9人で一週間、日替わりでトリ

をとる番組に、出ていた。私は四

日間の出演だが、自身の出番が無

い日も、法被を着て呼び込みをし

たり、記念に作った瓦煎餅の売り

子をしたりと、大忙しだった。

この煎餅、紋が焼き印されて6枚

入り、我々の似顔絵ステッカーを

付けて600円。

暴利を貪っているとお願いかも

しれませんが、原価が結構掛かっ

ていて、特にステッカーが煎餅以

坊枝の新婚日記

外国に行くにあらかじめ日本の

良さを感じることが多いという。

昨年に続いて今年もお世話に

なっているご僧侶とともにスリ

ラを訪問した。

帰りは関空への飛行機が1時間

近く遅れ、入国検査を終えると関

空から大阪市内への電車がなくな

りそうなので、妻に連絡をして関

空まで車で迎えに来てもらうこと

にした。

入国検査時に体温センサーが反

応し、微熱があると指摘され医師

からの10分ほどの問診の結果、入

国が許可された。

異国の暑さと香辛料の多い食事

に加えて帰国時のランジェット

が6時間と長く、そのうえ機内

でもあまり眠れなかったので疲れ

が出たのだと思う。

ようやくホッとして車に乗った

が、関空から自宅までの1時間半

ほどの間、私が不在だった時のこ

とを話し続け、私が眠りそうにな

ると「聞いているんか？」と感想を

求め続けた。

スリランカでの自由で楽しい

日々がいとおしく感じた。

楽珍の“警備員”日記

（へえ…お坊さんも馬券買うね

や…）

私が今警備をしている尼崎・園

田競馬場の馬券売場に、若いお坊

さんがやって来た。

おそらく法事帰りであろう…

白と黄色の水引きのかかった

訪問した。

不祝儀袋を取り出し、大きく息を「フッ！」と吹きかけ、中から1万円札を3枚：券売機の中へ放り込んだ。

（おお！3万円の1発勝負かあ……！しかし罰当たりと違うかな……？）と心配する私。

いざレースが始まると、なんとこのお坊さんモニターを見ながら、おもむろに数珠を取り出し、大きな声でお経を読みながら応援を始めました。みんなクスクス笑っている㊤「ナンマイダーナンマイダー」。

（こんな坊さん見た事無いがなあ……）と私。

「ナンマイダー！エイシンニシパ！単勝・3万円」と応援する馬の名前が入る……

（え、エイシンニシパ号、3万円、5番人気の13倍の馬か……えっ？39万円！！エイシンニシパ号1着なら39万円……このレース楽しみになってるぞ……㊤）

レースは第4コーナーから最後の直線でグーと延びて来た！エイシンニシパ号！写真判定にもつれ込んだが、結局は2着！！

大歓声の中、ガックリと肩を落としたお坊さんがヨロヨロと歩いて来て、ものすごい形相で、カミの馬券をクシヤクシヤにまるめて、ゴミ箱へ放り込んで叫んだ！！

「カミも仏も無いわあ……！！」と怒りながら、帰って行く若いお坊さんの後姿を見ながら私は、「ああ！君はまだまだ修行が足りないね……！」と落語家44年目を迎えるのに、今だにアルバイト警備員をしている私は思った。

「枝曾丸のつれもていこら」

防災士としての活動も最近は活発になっている私。

先日、登山家の野口健さんと一緒にしました。

多くの災害現場に自ら出向き、熊本地震ではテントプロジェクトとして各地より寄せられた災害用テントを持って復旧活動を実施した。そんな野口さんがある災害現場に駆け付けた際、知り合いの消防士の人に陣中見舞いにとタバコを贈った。本人は大層喜んでくれたのですが、一部のマスコミは「災害で救われた命を肺がんで亡くすつもりか！」と叩かれたそうです。助かった者同士、将来が見えない不安の中で、復興に向かっていく人は想像出来ない緊張感があると思います。

その中に喫煙者が居れば、この贈り物が随分嬉しかった筈。

私が思うに、この行為は、温かさを感じますし慈悲的です。しかし一方では、「健康に害するものを贈るなんて不謹慎だ！」という見方もあります。が、相手を知っていればこういう感情もないでしょう。いつ来るか解らない災害。この機会にお互いの立場で一考しましょう。

ぼんぼ娘ピーのポンポコナー

今年の夏も、異常に熱かった。子どもが夏休み中、どこかに連れて行ってあげたい気持ちがあったが、あまりにも猛暑だったので、自宅で一緒にアニメを見て過ごし

ている毎日。

ただ、最近の子どもはアニメもユーチューブでも、2倍速で見るの、一緒に見てもついていけない。セリフが聞き取れず娘に聞くと「何でわかんないの？」と、不思議がられる。親として本当に情けない。その点、うちの師匠は素晴らしい。いつも動画を2倍にしている娘が師匠の「たぬき小屋から福もろ亭」のユーチューブチャンネルだけは、2倍速でなくとも聞き取れないという。なにかとタイパ、コスパを優先し、情緒を忘れたがちな現代人に対して、アンチテーゼを唱えるがごとく、標準速度で聞き取れない日本語をくり出す師匠は本当に素晴らしい。ただ修行の足りない私は標準の速さでもどうせわからないので、いつも2倍速で聞き流している。

文福の ой やんストーリー

今年の名古屋場所は、59年間続いた、愛知県体育館最後の場所だった。が横綱照ノ富士関と、平幕の隆の勝関の優勝決定戦という最高の盛り上がりで、まさに「オワリはナゴヤか」となった。

照ノ富士関が節目の十度目の優勝を飾ったが、この名古屋城の緑に、力士幟がはためく場所は今まで数々のドラマがあった。白鵬関45回目の優勝を全勝でしめたことも記憶に新しいが、この外国出身力士の大活躍のもととなったのがジェシースマイルで人気を博した高見山関、47年の名古屋で外国人初の幕内優勝を果たし、時のニク

ソン大統領から祝電が届いた。この春に「落語笑売」の道に足をふみ入れた私は、ものすごい勇氣と希望を与えられたものだ。

そんなことを思い出しながら、阿武剋関が新入幕に向けてがんばるのを応援しよう今年も、名古屋に行ったら木戸口で「ありがと愛知県体育館」と相撲字で書かれた「大入り袋」がもらえた。この発案者は、七月場所担当の元木村山の岩友親方。彼は場所前に42才の若さで天に召された。私の母のふるさと御坊市出身で、箕島高校から東洋大の相撲部で活躍し、同じ高校の先輩、元関脇栃乃和歌の春日野部屋に入門。十両に昇進した際の祝賀会、和歌山市のホテルで私は「木村山関が幕内に出世したら二代目栃乃和歌を襲名してください」とスピーチしたら県の相撲連盟の関係者や春日野親方も万雷の拍手。その時本人は、大きな体をゆさぶって、両手をふって「イヤイヤと照れていた姿も懐かしい。引退後は、部屋付き親方として伝統ある部屋で若い衆を指導、そして日本相撲協会の「親方チャンネル」でもユニークな情報発信で相撲ファンを増やそうと頑張っておられた。ほんまにお疲れ様。心よりごめい福を念じあげて、合掌。

編集後記

いつも当新聞をご愛読頂き、ありがとうございます。今号は各地で年末まで配布させてもらいます。一門として、まことにおめでたい二人の襲名の記事をのせら

れた事はうれしい限りです。しかし、人生悲喜こもごも我ら同業者からも、天に召された師匠方がおられます。

我が上方落語協会会長、笑福亭仁智門下の智六師が、46才という若さで、志半ばで旅立たれました。そして、上方落語界の大御所のざこば師も76才で急逝。朝丸時代からマスコミで売れ、ざこばを襲名されてからも人間国宝朝丸一門のまとめ役として活躍。涙もろく、男気のある人情味豊かな師匠でした。さらに、東西最高齢99才まで現役であられた、桂米丸師匠。戦後すぐに、おばあさん落語で人気を博した古今亭今輔師に入門、わずか3年で真打に。新作落語一筋で落語芸術協会会長と最高顧問として多くの嘶家の心の支えとなりました。お笑いスター誕生の審査委員長でもおなじみでした。滝川鯉朝師や桂文治師のお世話で新宿末広亭に出して頂き、うらにある喫茶店「楽屋」に連れて行ってもらったら、米丸師匠が、おしゃれな帽子とスーツをピシッと着こなして座っておられ、「わ、わ、私はご、ご、五代目ぶ、ぶ、文枝の、で、弟子で、アワワ……」師匠がニコリ、「がんばってくださいね」林家三平師匠と同年だったとか、若手の頃、芸を競い合っただけでしょうね。三平師匠は54才で天国寄席へ。出来ましたら80、90代の三平師匠も見えなかったですね。上方では米朝師匠も同じ年。あらためてごめい福を念じあげて、合掌。皆様も健康第一!! ご自愛ください。(文福)